

【実態把握から目標設定へ】

国語は言葉でのやり取りの獲得が目標となるので、土台の見定めが必要となる。実態把握として、高次化簡易チェックリスト、自立活動チェックリスト、日常観察などから発達を把握し、国語を支える力は学習到達度チェックリスト（発達の段階が教科に置き換えられるので、とても使いやすい）を用いて目標設定した。

身近な物の名前がわかり、絵本、音楽が大好き



No：首を左右に振る
(Yes ときも横振りしてしまう)
欲しいとき：タッチ、手を伸ばす

iPad が大好き
聴く方が得意

カードや具体物を投げてしまう
親指を口へ入れてやらないアピール
をししたりする

手を使う活動は、力が入って
コントロールが難しい

- ・注視 かなり顔を近づけてみる
- ・追視 人は追うが複雑な映像は見づらい

「手は机」「ばんざい」「めくって」「三角巾ははずしません」などができるよ

学習到達度チェックリスト表1（国語項目）
【聞く】スコア18 全クリア 【聞くこと】が得意
【話す】スコア8 発語はない。やりたくないときに指を口へ入れる。腕を引いてそばに来てほしいことをアピールする。
【読む】スコア12 ページをめくって見る。指した方を見る。
【書く】スコア8 「ちょうだい」で渡す。シールをつまむ。
スコア12の段階・意義
言語指示への応答、相互的なやり取りの拡大、発語、活動と結果

学習指導要領（1段階）

目標設定

○教員の話や読み聞かせに意識を向けて聞き、発声、首の動き、ジェスチャーで応じる

もっと単元に即した目標が良かった。どんな発声？、首の動き？ジェスチャー？なのかを定めるべきだった・・・

学習を支える自立活動

自立活動
学習の基礎となる自立活動は
身体、認知の両面で大切にしています

平衡感覚

操作

手はこれか・・・

ボディイメージ

併設する病院のセラピストから、学習中の姿勢や操作のアドバイスが受けられます

PT

プレーリーくん
で体をまっすぐしよう

ST

具体物と引き換えて！

まず、腕や手に触れてね！

OT

脳性麻痺、未熟児網膜症（右目視力 0.05）、ダンディーウォーカー症候群、症候性てんかん（眼振を伴う発作が頻繁にある）。視力が弱く、視野が狭い。左半身に麻痺があり、主に右手で操作をするがコントロールは難しい。右凸の側弯があるため、座位姿勢で左へ傾く。

発語はないが、理解できる言葉が増え、話しかけに笑ったり首を振ったりして応えようとする。

奈良簡易チェックリスト高次化理論：水準Ⅲ（知覚運動水準）

新版K式発達検査（令和5年3月実施）全領域0歳8か月（姿勢運動9か月、認知8か月、言語社会9か月）

指導の実際と教材教具

※本校では週3回国語があり
1時限で集団と個別指導を実施

① 集団学習 (30から35分)

題材「ももひめ(ももたろう)」

MT 主導で話を進めながら、ロールプレイの中で役割を通してやり取りをする

② 個別学習 (10から15分)

個に合わせた絵本の読み聞かせと活動を行い、個別に補う

① 集団学習

みんなと関われるように

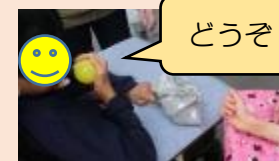
桃姫役：ボカを押す

きびだんごをみんなに渡す(操作)

先頭で移動する(動きの変化)

※おにぎりをもって袋へ入れる

きびだんごをこねるなど (操作)



② 個別学習

得意な【聞くこと】の領域では絵本の読み聞かせを通した学びを考えた。

これまで 絵本の上部をつかんで手前に回転させてしまい、いつの間にか**感覚遊び**になっていた。そこで、ルールを決めた。

☆絵本は回転させない。☆「**手は机**」で読み進める。☆「めくって」の言葉掛けで手を出させる。☆内容に合わせた具体物で十分遊ぶ。

指導の実際

○具体物を渡すときのルール

・写真カードと交換する

「同じ」を
意識づけるために

○読み聞かせのルール



「てはつくえ！」
「めくって！」

ルール

1. 読むときは「手はどこ(机)」、ページをめくるときは「めくって」の言葉かけで行動させる。
2. リズミカルに読み進める。
3. 読み終わったら、「おしまい」と目を見ながら振える。
4. 上手に行動ができたなら言葉でほめ、「できた」と3回手を叩く。

教材の工夫(個別学習)

絵本の内容を確かにする具体物でのやり取り

・「めがねがね」



あそびを交えながら
しっかり意識づける

・「くまちゃんのホットケーキ」



こぐま社
わかやまけん



授業実践を通しての変容

- ・難しいと思われた「手は机」「めくって」ができるようになり、聞く態度が身についた。
「(めがねがね) どこいった?」と聞くと、予測をしながらタイミングよく笑うようになった。
- ・絵本の内容と合った教材で遊ぶことで、読み聞かせを期待するようになった。
- ・「うう」と呼びかけ、自ら教員の腕を引き寄せることが増えた。
- ・友だちの顔ときびだんごを交互に視線を向けて見比べて手をのばせることが増えた。

個別の良さ

集団の良さ

個別学習と集団学習を組み合わせ
今後も繰り返しながら定着させたい

参考文献

障害の重い子どもの目標設定ガイド 徳永豊著

